

著作権の侵害を探る

小規模出版社

多くの小規模コンテンツ プロバイダーは、著作権の侵害に十分に対応していく余裕はありません。侵害を確実に防ぐためには、費用対効果がより高い戦略が必要です。

大手出版社

販売力やマーケティングの優位性にもかかわらず、従来の顧客獲得手段が不正なルートのために敬遠されるケースが増えてきています。

マスマーケット

コンテンツや出版業者の誰もがマスマーケットの中で同じ顧客をめぐる競争に陥っている一方、コンテンツ侵害や偽装詐欺が著作権市場シェアに大きな影を落としています。

フィッシング詐欺

違法なWebサイト、トレント、およびフィッシング詐欺も出版社から顧客をおびき寄せています。

不正なコンテンツの利用

手口が巧妙化した著作権侵害は、市場シェアだけではなく、消費者の関心さえも従来の出版社や他のコンテンツ保有者から奪い取っています。ニールセン社の2017年の調査では、米国出版社の電子書籍における著作権侵害の売上損失額は、毎年3億1500万ドルにも上ります。